

令和4年度第1回京都市図書館協議会摘録

○日 時：令和4年11月18日（金）

午前10時00分～12時00分

○場 所：京都市右京中央図書館（サンサ右京） 研修室

○出席委員：[8名中7名出席]

岩崎 れい 委員

小野 恭裕 委員

梶川 敏夫 委員

後藤由美子 委員

芝井 悦代 委員

高田 敏司 委員

古澤 奈央子 委員（五十音順）

○欠席委員：1名

○傍聴者：0名

1 開会

（1）出席委員紹介

- ・ 委員交代に伴う新委員の紹介

（2）事務局紹介

（3）中央図書館長の挨拶

- ・ 図書館に関するあるアンケートでは、個人が購入した書籍の48%は読まずに積んでおいたままであり、どうい本を読みたいかという問いに対し、59%が薦められた本を読むと回答した。
- ・ 従って、私たち図書館を運営する側としては、個人の手元にある本の半分は読まれず、また、読みたい本を選ぶ人が4割、人に勧められた本を選ぶ人が6割いるという認識を持って、書籍の選定や、展示コーナーを企画するなど図書館運営を進めることで、より利用者の目線に立った図書館につながると思う。
- ・ 日々の図書館運営の中心にいるのが司書である。本市図書館にはベテラン司書や能力の高い司書も数多く在籍しており、職階制や報奨制度を導入し、目標ややりがい、責任感を持って、日々の業務に取り組んでいただくとともに、研修などで、司書全体の質の向上、底上げを図ってまいりたい。
- ・ 本協議会は京都市中央図書館長の唯一の諮問機関である。京都市図書館の業務及び運営について、様々なご意見をいただき、各種取組やサービスを実施するに当たって、参考とさせていただいている。本日も活発な議論をよろしく願います。

2 報告事項

（1）京都市図書館の利用状況等について

事務局から、資料に基づき、「京都市図書館利用状況等の推移」について報告した。

貸出冊数については、平成22年度をピークに、多少の前後はあるが減少傾向になっているが、全国の推移についても、平成22年度をピークに減少傾向となっている。本市としては、スマー

トフォンの普及や時間の過ごし方の多様性をはじめ、読書をする時間が減少するなどの社会的な要因が影響していると分析している。

令和2年度、令和3年度はコロナの影響により、臨時休館や館内の利用を制限し、予約資料の貸出のみにサービスを限定した期間があったり、夜間の開館時間を短縮したため、貸出冊数や入館者数が大きく減少した。しかし、そうした中、令和3年度については、予約冊数やブックメールによる運搬冊数の数値が大きく上がり、過去最高値となった。これは、利用者の図書館の利用の仕方の変化、読みたい本をインターネット等により予約し、身近な図書館に取り寄せて借りる利用形態が定着・広がってきたことによるもので、コロナにより一層この傾向が進んだと考えている。

なお、今年度の利用状況については、4月から9月までの貸出冊数を、コロナの影響のなかった令和元年度と比較して、全体では94.4%、12歳までの児童の貸出冊数については99.5%まで回復している。

3 協議事項

「令和3年度第2回京都市図書館協議会（書面開催）における協議事項『京都市行財政改革計画を踏まえた京都市図書館のあり方について』のご意見」を協議事項とすることについて、事務局から以下のとおり説明した。

書面開催となった令和3年度第2回図書館協議会では、「京都市行財政改革計画を踏まえた京都市図書館のあり方について」を協議事項として、図書館サービスについて、維持・充実していくもの、見直し・縮小が可能なもの、新たに導入すべきものといった観点、及び、図書館の枠組みについて、図書館の配置・規模、図書館の機能の見直し、図書館に付与すべき新たな機能といった観点で、皆様から書面でご意見をいただいた。

あらためて本市の財政状況をご説明すると、本市では、令和3年度から7年度を計画期間として、本市の危機的な財政状況を克服し、持続可能な財政運営への道筋をつけるため、市民の皆様のご理解・ご協力を得ながら、支出が収入を上回るといった本市の財政構造の見直しを進めているところである。

令和4年度予算における見直し及び令和3年度決算における収支改善により、計画は直実に進行し、数年で破綻するといった状況は回避したところではあるが、令和3年度決算での改善は、大幅に見込まれていた税収の落ち込みが、予想以上に抑えられたこと、また、国からの交付税を予想以上に確保できたことによるもので、こうしたことが、今後も見込めるかは不透明なものであり、本来行うべきではない公債償還基金の計画外の取り崩しは、今年度、今だ505億円に上ることから、引き続き、行財政改革計画を着実に実行し、本市の財政構造の大幅な見直しを進めていく必要がある。

こうしたことから、図書館に関しても、引き続き、行財政改革計画に盛り込まれている。「図書館の統合・再配置の検討」をはじめ、運営経費の抑制に取り組んでいく必要がある。

前回、皆様から頂いたご意見を、①「図書館の現状や図書館が見直し対象となることについてのご意見」、②「図書館の統合・再配置についてのご意見」、③「図書館サービスについてのご意見」の項目ごとにまとめさせていただいているので、改めてこれをもとにご協議いただき、今後の検討の視点を確かなものとしていきたいと考えている。よろしく願います。

4 協議事項に関する質疑応答

① 図書館の現状や図書館が見直し対象となることについてのご意見

意見 図書は常に出版され続け、今後も図書館は新しい書籍を購入していくが、それらを所蔵する施設や収容面積が少なく、脆弱な状況といえる。

図書館と同様の文化施設としての話になるが、過去に、都市の品格を表すものが必要であるという考えから、世界に誇れる博物館を作ろうと「京都市歴史博物館構想」を立ち上げたが、財政難のため頓挫してしまった経緯がある。

政令指定都市であるということ、市民とのつながりがより深い図書館であるといったことを踏まえると、図書を所蔵する施設や大規模な図書館施設が絶対に必要と考える。しかし、今の財政状況では前に進めることは無理であるため、将来的にそういった計画、構想が実現できるよう先を見据えることが重要であると考えます。

意見 京都市行財政改革計画の中で、京都市図書館に対して具体的な内容が提示・指示されているのか？

回答 京都市の施設全体を見直すことが大きな命題となっており、20館ある図書館についても、統合・再配置を検討していくべし、ということが盛り込まれている。厳しい財政状況であるため、様々な図書館機能も含めて見直しが求められている。令和7年度までに一定の方向性を出していくことになっているため、本日の協議題にも挙げさせていただき、今後も引き続き検討していく。

意見 現在、図書館は20館あるが、中央図書館と地域図書館のそれぞれが役割分担をし、利用者にとってすぐに行ける所に図書館があるということが重要である。

コロナ禍で入館者数が減っている一方で、予約冊数や運搬冊数が増加しているとの報告があったが、予約した図書を近隣の図書館で受け取るサービスはとても便利であり、利用者にとって良いサービスを提供していると思う。

全体的に見れば遍在して図書館が配置されているが、地域によっては偏りがあったりもするため、中央館と地域館の役割分担なども踏まえて、将来のあるべき姿を見通して考えていくことが重要と考える。大阪府立図書館などの規模の大きい図書館にもよく行くが、所蔵資料数が多いことで安心感を得ることがある。府と市のすみ分けも含めて、大きなネットワークを構築することも必要だと思う。

意見 小さい子どもたちに本に触れて欲しいという思いがあるが、近くの図書館がなくなることによって、子どもと本との距離も遠くなってしまわないか危惧している。デジタル機器も増えており、スマホなどで色々なものを見たりすることができるが、やはり紙の質感に出会える図書館という存在が重要だと考える。厳しい財政状況ではあるが、ここにおられる委員も図書館数を減らしたいと思われている方はいないと思う。市民の皆様により良く利用してもらえることを念頭に置いたうえで再配置を考えることが重要であり、図書館の良さをアピールして、子どもたちのすぐそばに本がある環境を守っていただけたらありがたいと考える。

意見 現在20館の図書館があるが、まだまだ図書館としての機能は十分に果たせていないと考えており、これ以上図書館が増えないことは残念である。しかし、行財政改革計画を踏まえて、図書館の在り方を考えないといけない今、サービスの方法や、開館時間の変更など、様々なことを考えて、削ることができる部分を捻出するしかないという思いである。

京都市から規模の大きい図書館がある市へ引っ越した知人が、予約した図書を身近な図書館まで取り寄せる速さや、夜まで開館している点など、京都市図書館の良さを

改めて感じたと言っていた。そういった京都市図書館の良さを大事にしながら、苦渋ではあるが費用を捻出できる部分を考えていけたらと思っている。

意見 子育てをしている世代としては図書館を減らしたくないという強い思いがある。

小さい子どもがいる時は親子で行って本を借りて読んでいたが、子どもが大きくなると、勉強のために友達と図書館に行っている。このように図書館は世代を超えて必要な場所なんだと再認識した。財政難ではあるが、そういった魅力ある大事な図書館をなくさないよう考えていかないといけないと思った。

意見 財政非常事態宣言の下、聖域なく改革を見直していく必要があるため、京都市図書館についても行財政改革計画の対象になると思うが、身近なところに図書館があるという役割は非常に大きいと思う。来年度となった文化庁の京都移転を契機に機運を盛り上げていくことを考えると、文化拠点である図書館を減らすことは考え難いが、コスト圧縮に向けて、検討する余地はあると思う。電子書籍の導入やネットワークの構築をはじめとしたデジタル空間での市民サービスを向上させる一方で、20館ある図書館の役割や使い方を変えていくなど、工夫次第でコスト削減をすることが可能ではないかと考える。

人口が減少している中で、個々の能力を高める「学び直し」が重要視されており、生涯学習施設と併せて身近にある図書館をうまく位置付けることで様々な変化や効果が生まれるのではないかと考えている。

意見 子どもや高齢者、車いすの方など、様々な利用者にとって、いかに使いやすいかという視点が必要かと思う。

電子書籍と紙の書籍では五感の使い方が異なるため、読む時の記憶にも違いがあると聞いた。電子書籍を導入することで利便性が向上するが、紙の書籍の良さも踏まえて、それぞれを上手く使い分けて利用することが重要だと思う。

京都市として、市民がいつでも使えるような状態で、且つ必要な情報を後世に残していくことが、責任として問われるのではないかと考える。

公共図書館が発展してきた1970年代頃と同じ役割では、市民のニーズには応えられないと思う。社会教育法の元にも位置付けられている公共図書館は、社会教育施設としての役割も果たさなければならないということになるため、役割の見直しということも重要と考える。

図書館の見直しによるコスト削減だけでなく、図書館が発展することによって、京都市の収入につながる方法はないのかといった視点もあると思う。

② 図書館の統合・再配置についてのご意見

意見 統合・再配置の具体的な案などはあるのか？

回答 具体的にはない。

意見 左京辺りに図書館が少ないような気がする。

意見 これまでから左京には中央館規模の図書館が必要という意見がある。現在の左京図書館は利用数が多いが図書館面積が600㎡と広くはない。

意見 中央図書館辺りに地域図書館が偏在している感じもする。

回答 中央図書館は、上京区、中京区と人口が多い地域をカバーしており、伏見区は最も人口が多い区であり、醍醐地域と伏見区中心部分が分かれているため、それらカバーするために中央館を配置しているが、他都市でいうと中規模くらいの大きさである。

右京区については、2番目に人口が多い区であるが、1館の配置となるため、中央館を配置している。このように、人口が多いところは中央館を配置し、その他の地域は地形などの影響もあるが、満遍なく配置している。

意見 図書館の配置図を見たところ、図書館数を減らすことが難しいと感じるが、行財政改革計画上、統合・再配置は必須なのか？サービス内容の見直しなどで20館を維持することは可能なのではないか？

回答 統合・再配置を検討し、具体的な案を提示することになるが、様々な改革案の中から、京都市全体で取捨選択することになるため、後々の判断になる。

回答 統合・再配置について、現状においてどのような弊害が生じているのかなど、具体的な事案が生じていないため、喫緊の課題ではないと認識している。それでも検討しなくてはならないのであれば、地図上でのみの検討ではなく、各図書館の蔵書数や交通網、地形や人口等長期的な視点で考える必要がある。現在の小規模の図書館を分散させて配置することは、京都市として理想の配置ではないかと考える。むしろ、これらをどのように活かすかが重要であり、今ある図書館を上手く活用することによって来館者を増やすことに繋げていかなければならない。必須図書との共通する割合を50%から40%、30%にするなどして、それ以外の図書について各館が特色を出して所蔵することも考えられる。

意見 例えば、図書館のスペースを貸し出すなど、市民の皆様から新たな財源を生み出す様々なアイデアを頂き、その財源を基に魅力ある図書館運営に還元することで、さらに利用者が増加すれば、図書館の存続につながると思う。これまでの図書館としての役割がありつつ、これまでと違ったサービスも展開し、利用者に活用してもらえると良いなと思う。

意見 今ある図書館を上手く活用することに同感であり、現在の図書館の配置においてはどれも動かすことができないと考える。施設の老朽化の課題もあるが、単に図書館を減らすということは絶対駄目であると思う。図書館が大事だという事を理解していただくためには、様々な取組も必要であるし、図書館運営の中心である司書の重要性や、司書の更なる資質向上を目に見える形でアピールすることも必要である。もしも、図書館を減らさざるを得ない場合となっても、地域の方々との話し合いが重要であると考えている。

意見 自分の住んでいない地域の実情や詳細な状況を把握してないため、どの館が統合すべきかを申し上げることは難しい。実際に20館を訪問し、それぞれがどのような図書館なのかということを知りたいと思った。

PTA は市内の学区ごとにあるため、何かお手伝いができるようなことがあれば、図書館のアピールに繋がるのではと思った。京都市 PTA 連絡協議会で話し合ってみたいと思う。

意見 ほとんどの図書館へ行ったことがあるが、住宅地に溶け込んでいたり、区役所やショッピングセンターに併設していたり、それぞれの図書館が地域に根差し、定着していると感じた。図書館を無くすのではなく、大切な文化資源としてどのように生かしていくかという前向きな話を進めるべきである。

予約した本を図書館に取りに行くという利用方法が定着していくことで、必ずしもどの図書館にも共通の図書を揃える必要がなくなるなど、これまでの概念にとらわれず、図書館の役割をどんどん見直していくことも必要と考える。

意見 市外に住んでいるが、最寄りの図書館は利用者が少なく、図書館が偏在している印象があるが、京都市は密に図書館を配置している。現在の図書館の利用状況等を鑑みても、図書館数を減らすことは難しいと思う。

財政がひっ迫していることが図書館の統合・再配置を検討する要因であるが、新型コロナウイルスが収まれば景気が回復することも考えられる。あまり悲観的に考えずに先を見据えて行動することが重要である。そのためには魅力ある図書館をどんどん発信していくべきだと思う。

古い図書館でも、工夫することで予算をあまり使わずに魅力ある図書館へリノベーションすることもできる。

京都市は大学の街と言われるほど大学が多く所在しており、大学図書館がたくさんある。大学と連携することでそれらを上手く活用できないかと考えている。ペーパーレスな時代になったが、本を手にとってページをめくり、確認をする、そして戻すというところが、基本的な人間のあり方だと思うため、そのような紙の図書が数多く所蔵されている図書館の良さをもう一度強調していくことも重要と考える。

意見 市立高校は歴史が古く、学校図書館には古い卒業論文などがあるため、そういった資料がある市立高校や市内の企業図書館と連携することで資料収集を充実させ、さすが京都市図書館だという魅力や特色を出せたら良いと思う。京都市は戦災で資料が焼失することがなかったため、貴重な資料が数多く残っている。そういった資料を重点的に収集し、図書館と連携することで図書館の利用促進につなげることも考えられる。

意見 統合・再配置するしないにかかわらず、各館それぞれの現状を把握する必要があると思う。「利用者が多い」としても、子どもを連れた利用なのか、予約資料を取りに行くためなのか、学生や仕事に関係した社会人の利用なのか、色々ある。また、こどもみらい館子育て図書館が子育てに役立つ図書や幼児教育・保育の専門書、DVD、CDなどを豊富に備えているように、ビジネス系や歴史郷土資料などコレクション別に特化する分担収集をさらに考えていく必要があると考える。

回答 大学との連携について説明する。京都市の図書館は京都市図書館間で、相互に図書のやり取りをしているが、京都市図書館に本が在籍しない場合は、京都府立図書館が核となり京都府内の図書館とネットワークで結んでる K-Libnet を介して、府立図書館や府内の各市町村図書館から本が借りることができる相互貸借のサービスを実施している。この相互貸借は現在11大学が参画しており、大学の専門図書が必要になった場合、大学図書館内のみの閲覧制限でない図書であれば、京都市図書館から借りることができる。なお、京都市立芸術大学については、直接京都市の図書館と相互貸借を行っている。

こういった大学との連携については、府立図書館が積極的に各大学に声掛けをしていただいております。大学数は徐々に増加しているが、一般の方が大学図書館に入館するなど直接利用できるか否かは各大学の判断になると思う。

意見 現在、図書館利用者が多いとしても、そのままで良いということにはならないと思うし、今後、情報を入手する方法や手段が変化していく中で、図書館の魅力創出に向けて、図書館に対するニーズを把握し、将来を見据えて実践していく必要があると考える。

③ 図書館サービスについてのご意見

意見 電子書籍の導入は市民からも関心が高い。ご説明をお願いしたい。

回答 電子書籍の導入については、これまでから議論をしてきた。紙の図書と比べて本の単価が高く、一般の単行本の単価は2,000円ぐらいのところ、電子書籍は2倍ほどかかる。導入冊数は3,000冊程度を予定している。

また、電子書籍は、商業ベースとして出版社が直接電子書籍サービスを提供する書籍が多く、紙の図書と比較して図書館が扱える書籍数が少ないため導入を見合わせていたが、コロナ禍でも図書館の休館時に来館することなく図書館サービスを受けることが出来るなどサービス向上を目的に、限られた予算の中ではあるが、電子書籍サービスを導入することとした。

意見 維持費については、いかがか？

回答 電子図書館システムのメンテナンス費用はかかるが、紙の図書のような貸し借りの業務がなかったり、図書そのものの管理という点ではお金がかからない。紙の図書と電子書籍の維持費や管理費用の比較は難しいと思っている。

意見 電子書籍を借りて、返却期限が到来すれば自動的に返却されるのであれば、とても便利である。図書館が電子書籍1冊を購入することで、複数館で利用することができたり、同時に何人もの人が借りることができるのか？

回答 各館ごとに電子書籍を所有するという概念ではなく、利用者全体を一つとみなして京都市がライセンス契約を締結することになる。資料1点につき、1ライセンスを京都市が購入し、そのライセンスに基づき利用者にご利用いただくことになるため、1ライセンスに対する利用者数は1人のみとなり、複数人で同時に利用することはできない。同じ本を複数の方が閲覧するためには、同じ本に対して複数のライセンスを購入する必要がある。しかし、電子書籍であれば来館せずに貸借の手続きができるため、紙の図書であれば読み終えても返却する日までの期間、手元に置いておられる方もいたと思うが、電子書籍であれば瞬時に返却できるため、貸出の回転率は早くなると思う。

また、今説明した内容は、図書館における電子書籍の利用についてであるが、その他、学校向けのサブスクリプションのプランもあり、学校が導入することでクラスのみんなが同時に閲覧できて、授業をすることができるコンテンツも展開している。

意見 現在の図書館の開館時間をさらに縮小をすることは、なかなか難しいと思う。理想は24時間開館であるが、中央館が平日20時まで開館していることは、仕事帰りにも立ち寄ることができて大変便利である。夜間開館を全ての館で実施することは難しいため、館によって特徴を出すことが良いと思う。

電子書籍については、利便性が高く、コロナ禍での利用促進にもつながるため、是非たくさん導入していただきたい。

他の自治体と比べると、京都市の人口140万人に対して電子書籍3,000冊は少し少ない気がする。京都府と京都市の図書館が協定を締結するなど、連携により購入する電子書籍を分担することで電子書籍の総冊数を増やすことができると思う。

京都市の図書館はTwitterをしているが、フォロワー数が多くない印象があるため、どんどん情報発信をしていくべきである。また、目的の図書のために図書館へ来館することも良いが、「司書のおすすめの本」をはじめとした様々な企画展示などをきっかけに新しい本と出会うこともある。そういった機会を創出するためにも、Instagram

など他の SNS も含めて、多くの人に様々な情報を提供し、京都市図書館の魅力を届けることが出来れば良いなど考える。

意見 図書館の開館時間を延ばすと、必ず人件費が膨らむことになるため、全館で開館時間を延長することは難しいと思う。また、実際に図書館で働いている方の意見を聞くことも重要であると考え。私たちは客観的に利用する立場のため、どのようなサービスをされて、どういった問題があるのかなど、実態を知るためにもヒアリングなどの機会があれば良いと思う。

意見 開館時間の延長に伴う人件費の増大や、司書の方の現場の声についてお尋ねしたい。

回答 開館時間を延長することで従事する職員を配置する必要があるが、人員確保や人件費増大などの部分で難しいと思う。また、司書として現場にいた時の話になるが、忙しい曜日、忙しい時間帯など、一日の中でも繁忙の波がある。先ほども、予約冊数が増加しているという報告をしたが、予約が増えるということは、朝の開館時間前に職員が棚から予約の本を抜くという手作業の業務も増加することになる。市民の皆様の利便性の向上につながっていることはとても喜ばしいことであるが、人員の配置や人件費の増大にも関係することであり、開館時間の延長については慎重に検討していくことが必要かと思う。また、限られた職員をどのようにして効率的に図書館事業に結び付けるかが重要であると考えており、司書の専門性を生かしたレファレンス業務にも力を入れるなど、さらなる資質向上に向けて様々な研修を企画しているが、身に着けるには時間を要するため、職員の配置の問題はすぐに解決できない難しい部分がある。

回答 京都府立図書館との連携の話があったが、電子書籍を扱う業者は10社以上あり、扱う電子書籍のジャンルに得意不得意があるため、業者によって提供している電子書籍が異なることになる。そのような中、京都府立図書館は学術書や専門書を主とするような電子書籍を導入したと聞いている。京都市が予定しているのは、市民サービスに特化した電子書籍であり、市民の皆様がお借りいただける小説や実用書、読み物などが得意な業者を選定することを考えている。電子書籍の業者それぞれが専用のプラットフォームを用意しており、電子書籍の業者を変更すると、これまで使用できた電子書籍が使えなくなることになるため、業者選定がとても重要となる。電子書籍を利用される場合は、京都府立図書館の電子書籍と京都市の電子書籍の両方に登録いただければと思う。

意見 開館時間の延長については、人員配置や人件費の問題、行財政改革の現状、働き方改革の観点など様々な課題があるが、可能性を探ることからも、実証実験を行い、検証することも一つかと思う。会社員や学生が利用したいというニーズもあると思う。人件費の問題があるのであれば貸出業務を停止したうえで、開館のみをボランティアで運営したり、光熱費の問題があるのであれば、利用者負担として使用料を徴収することも考えられる。

京都府立図書館の電子書籍を利用しているが、とても便利である。市民が使い分けることを前提に、京都府と京都市のそれぞれの電子書籍の役割分担を初めから決めておくことで、限られた予算を有効に使うことができる。電子書籍は高価なものであるため、長期的な視点に立って電子書籍の購入を進めていただきたい。

府立図書館・京都市図書館の連携についても、昔と比べてだいぶ進んだと感じてい

る。市の図書館にない本をリクエストした場合、京都府立図書館にあれば、その本を近くの京都市図書館へ取り寄せて借りることができるなど、とても便利になった。さらに連携を深めて、京都府立図書館から取り寄せて借りた本について、期間延長の手続きや返却ポストで返却出来るようになれば良いと思う。今後さらに改善を進めながら連携を深めることで、他の市町村や国会図書館とのネットワークの強化はもとより、デジタル空間全体の充実・発展にも繋げていくなど、市民の利便性向上に向けて電子書籍サービスをきっかけに戦略的に取り組んでいくことがとても重要と考える。

意見 子どもの読書支援、家庭での読書環境の支援に関して一つ報告させていただくが、今年度から学校運営協議会に図書館運営委員会を立ち上げて、運営協議会の理事の役員と教職員、学区民のボランティアによる読み聞かせや図書室の管理、学校図書館司書のお手伝いを始めた。夏休みにはラジオ体操の後に図書館を利用できるよう学校にも協力していただき、読書に親しんでもらいたいという思いで取組を続けてきた結果、本をととても好きになって読書をする子どもが増えた。学校にも喜んでいただき、地域との関りも深まるなど、とても意味のある活動ができたと感じた。その他、中央図書館の司書をお呼びし、子どもにもっと本を楽しんでもらう方法について保護者向けにお話しをしていただいた。こういった取組がさらに広がり、子どもの読書習慣が育まれていけば良いなと思った。

意見 図書館としてどうしても守らなければならない部分は守りつつ、各項目について出来ることを少しずつ行うことで、コスト削減に貢献できれば良いと思う。

読書バリアフリー法に基づいた、すべての人々へのサービスの提供は、公共図書館としてとても重要な役割の一つであると思う。以前に、それに関する展示やイベントなどを中央図書館で担っているとお聞きしたが、そういった中央図書館の取組や成果、情報を地域図書館にも発信いただき、様々な取組が、その館だけに終わらず、どこの図書館を利用する人にも享受できるように工夫をしてほしい。

意見 週に2～3日程度ではあるが、学校図書館に学校司書が配属されて10年以上経つが、本当に本と子どもを繋いでくれていると実感している。学習に関連する図書を集めていただけるだけでなく、子どもたちとの関わりの中で新しい知識を教えていただいている。図書館は単に本があるだけでは駄目で、そこに司書がいることで、子どもたちがよりたくさん本や素敵な本と出会うことができる。

本日の皆さんの話をお聞きし、これは公共図書館でも同じで、司書によってたくさんの人と本を繋いでいるんだという思いを強くした。

意見 図書館でボランティアを募集することは反対である。「ボランティア」はあくまでも、社会の変革を目指して、ボランティア側が何かを変えたいという思いでやるものであり、図書館側がボランティアを募り、図書館業務を担ってもらうものではなく、行政がお願いするのであれば、きちんと賃金や対価を支払う必要があると考える。また、図書館業務の中心は司書が行い、図書館の夜間開館などの開館業務はボランティアに託すとした場合、表面的な部分のみでボランティアでもできるという誤った印象を持たれることで、司書は不要との流れになってしまうことが危険と感じる。

図書館が果たす役割は利用者層によって違ふし、公共図書館の発展期であった1970年代、80年代と同じやり方でも駄目である。科学技術が進歩するとともに人々の生活も変わっていく中で、利用者にとってどのような新しいサービスができるのか、どのような部分を変えていく必要があるのかということ、様々な意見を聞きながら

少しずつ魅力を創出することが重要であり、その結果、利用者が増えたり、京都市や市会でも図書館は必要であり充実させないといけないと思ってもらえるように繋げていくことが必要であると考え。

5 事務連絡

6 閉会